

2人目の子を妊娠中、おなかの赤ちゃんに心臓病があると判明しました。生まれてからも呼吸が安定せず、そのまま入院。手術などを経て生後8カ月でやっと退院できました。他の子と比べて発達がゆっくりなのは、入院生活が長かったからだと自分に言い聞かせましたが、検査の結果は知的障がいのある自閉症スペクトラムでした。

幸いにも広島市の療育センター

2023/4/13
中国新聞 SELECT

想



すきた まきこ
鋤田 真樹子

安心して育み合える場を

1に通うことができ、3年を迎えました。その息子は入園当初からは考えられないほどの成長を見せてくれました。私自身、親子が安心して過ごせる場所と、信頼できる大人の支えがどれだけ大切かを学びました。

ただ入園してからの3年間は新型コロナウイルス流行の真っただ中。休園や分散登園を余儀なくされ、保護者同士の交流や情報交換なども容易にできる状

況ではありませんでした。不安定な環境は兄弟姉妹の心にも影響します。そこで、私は友人と2人で子育て支援サークル「ほこぼこトレイン」を立ち上げ、支え合う活動を始めました。

障がいや病気のあるなしにかかわらず、子どもたちが交流できる環境と遊び場をつくっていききたい。そのためにはまず障がいを「知ってもらう」ことから始めよう。そして関わった人たちが、感じて、考えて、思いや

るようになってほしいと思いをしました。すぐに結果は出ないけれど、理解する姿勢や機会を持つてもらいたいと考えたのです。

特性のある子を連れて外出するのは周りの目が気になります。保護者は周囲に迷惑をかけるのではないかと気にするあまり、外出を控えたりイベントなどへの参加をためらったりするという声を聞いてきました。

ただ、障がいの垣根を越え、どんな子にも夢を持てるような経験をさせてあげたい。楽しみながら成長し合える場所をつくりたいのです。そのため私たちは「ほこぼこ遊び」の延長ができるイベントを計画中です。そして将来的には、地元の企業と関わりを深め、障がい者雇用につながる活動にも広げていききたいと考えています。

(ほこぼこトレイン代表)